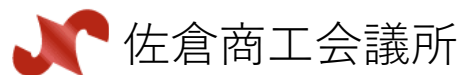




佐倉市の早期景気観測調査

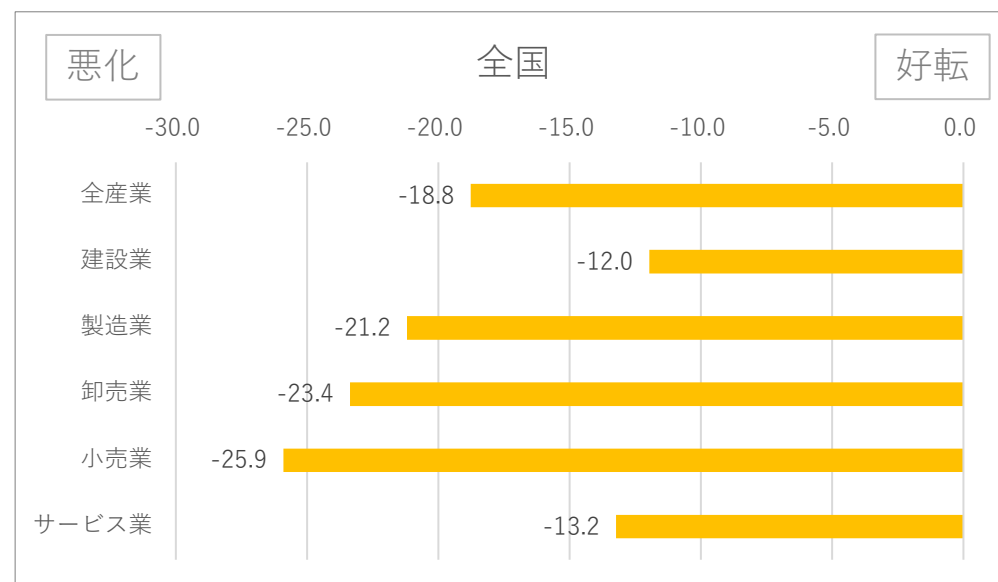
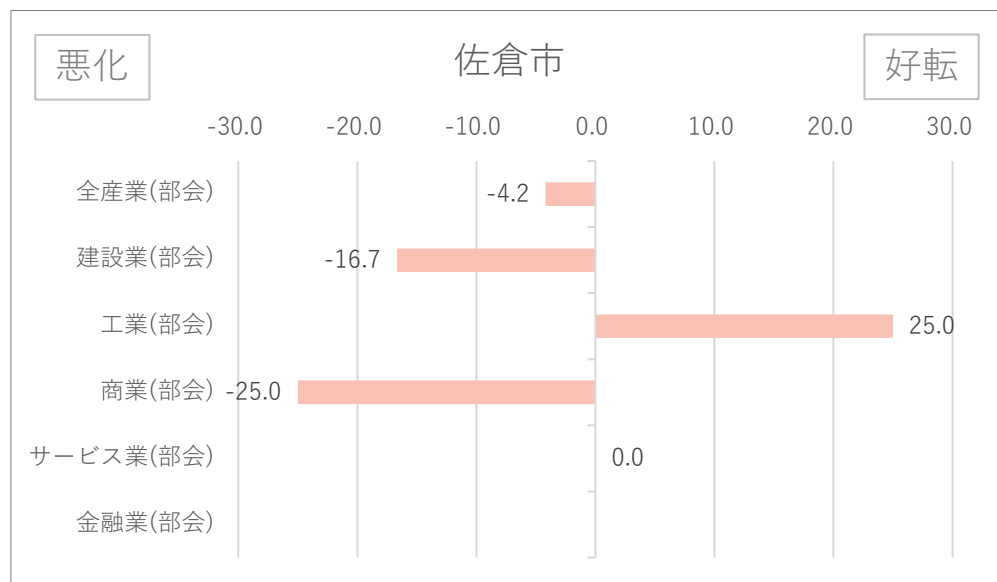
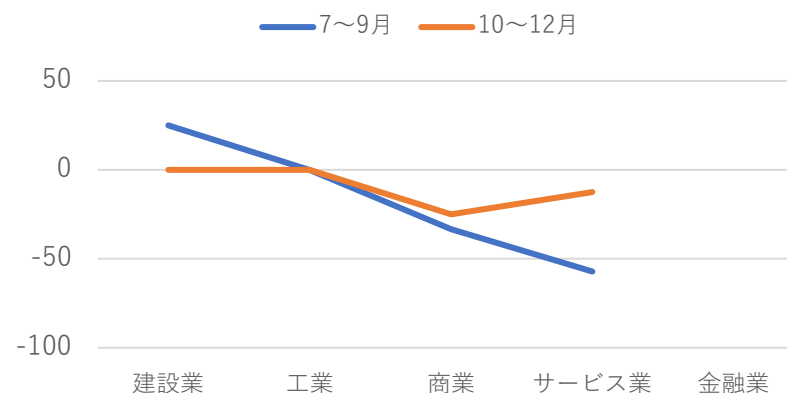
令和7年度第2回(令和7年7～9月)の結果報告



佐倉市における業況見通しは、前回調査から継続して工業(部会)における好転の兆しが見られ、サービス業(部会)においても横這いとの見解が示された。一方、右図の全国調査では引き続き全産業における悪化傾向は続いており、先行きの見通しは厳しい。

3ヶ月後の先行き見通しは、前回調査で悪化の見通しとなった商業(部会)やサービス業(部会)が、一転して回復を見通す結果となったが、全体的なマイナス基調に大きな変化は見られない。

■3ヶ月後の先行き見通し

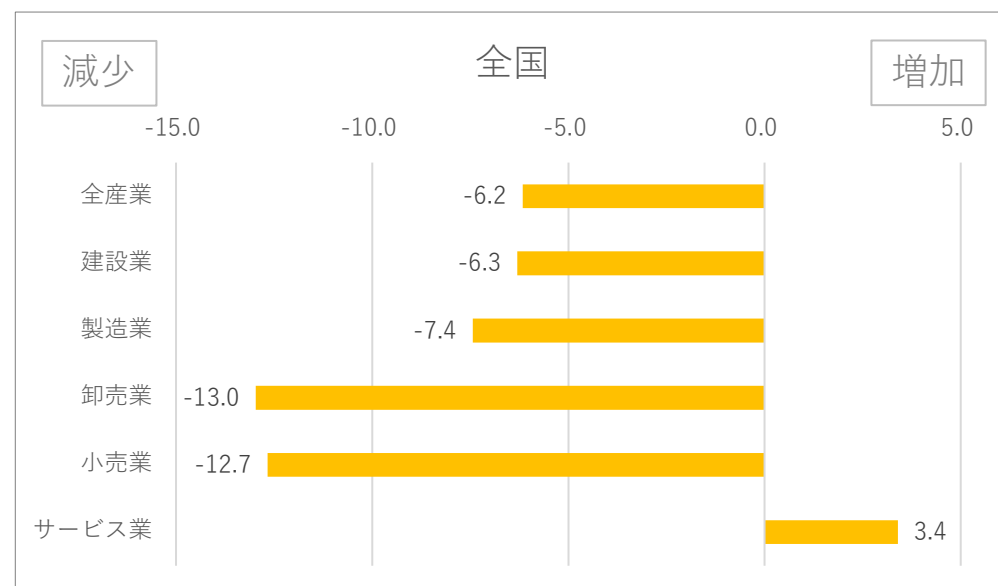
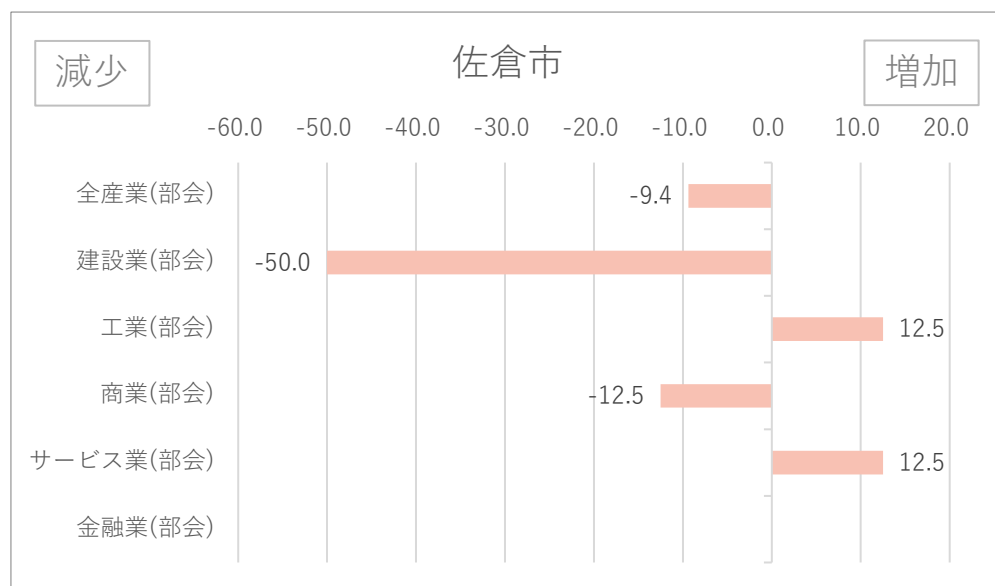
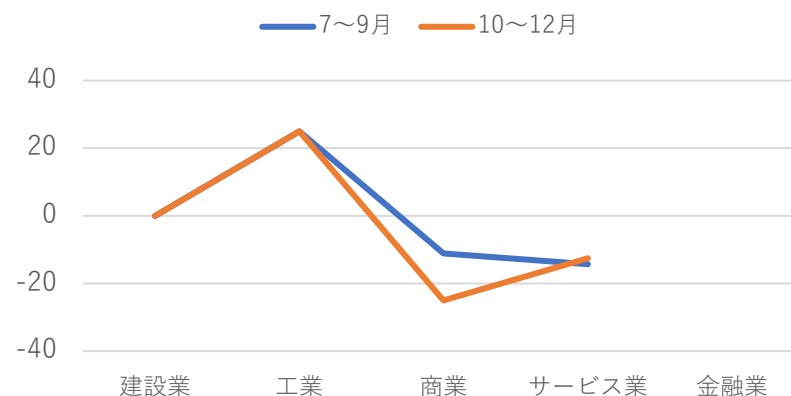


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の売上高見通しは、全産業(部会)で増加となった前回調査から一転し、建設業(部会)や商業(部会)で減少となり、全産業(部会)で減少となった。全国調査では前回調査から継続してサービス業のみ増加となっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しは継続して前回調査と同様の見通しが示されたものの、産業(部会)ごとの振れ幅は小さく、ゼロ近傍に収められて変動性は低下した。しばし横這いが見込まれる。

■3ヶ月後の先行き見通し

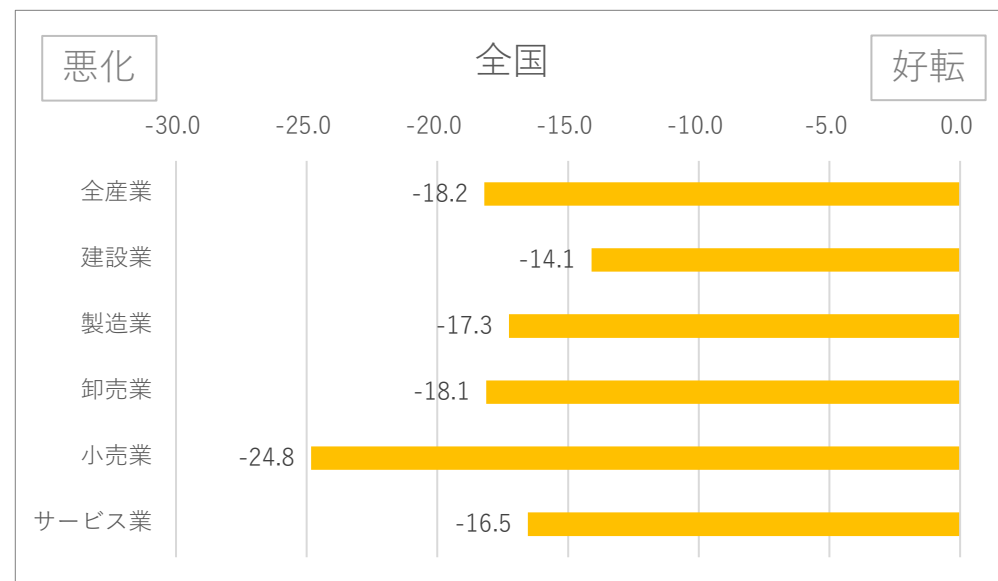
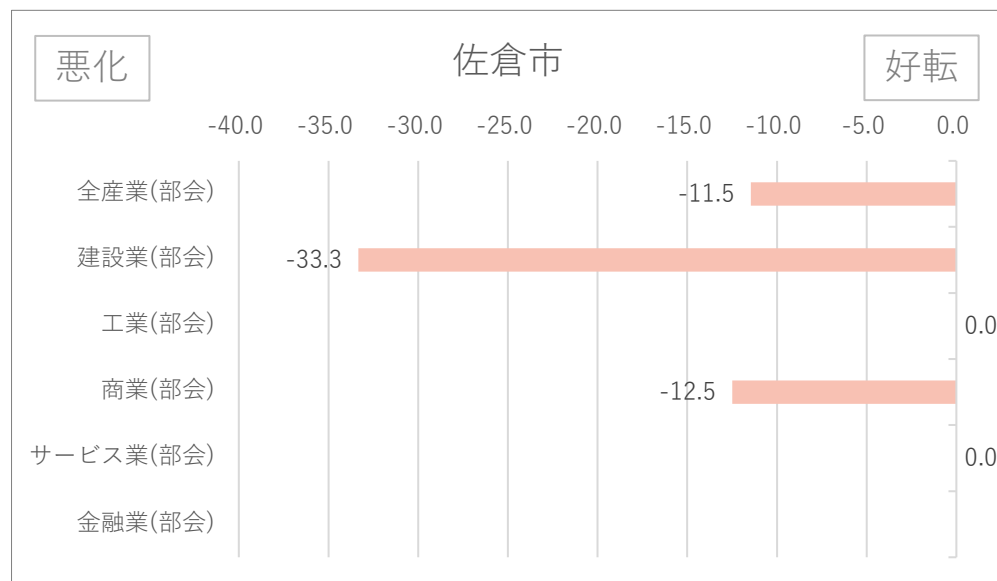
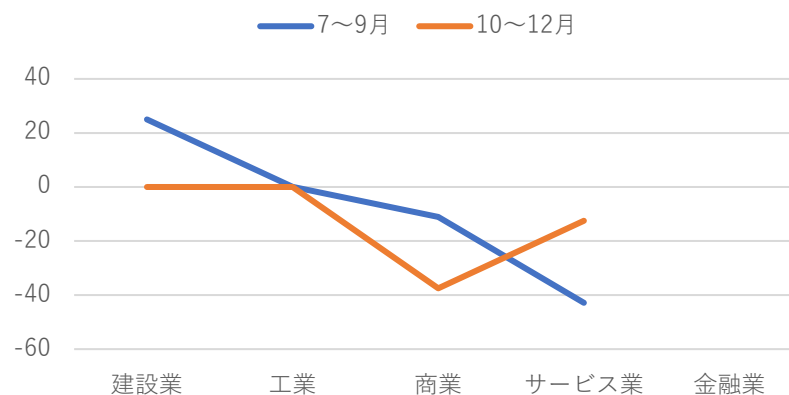


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における採算見通しは、工業(部会)とサービス業(部会)では横這いとなったものの全産業(部会)では悪化傾向が強まる結果となった。全国調査でも引き続き全産業で悪化が示されており、原材料、燃料、労務費のコスト増加の長期化が懸念される。

3ヶ月後の先行き見通しも産業(部会)ごとの変動はあるものの、全体的な悪化見通しの傾向は変わらない。慎重な見通しとなっている背景には、さらなる悪化に対する不安感が垣間見える。

■3ヶ月後の先行き見通し

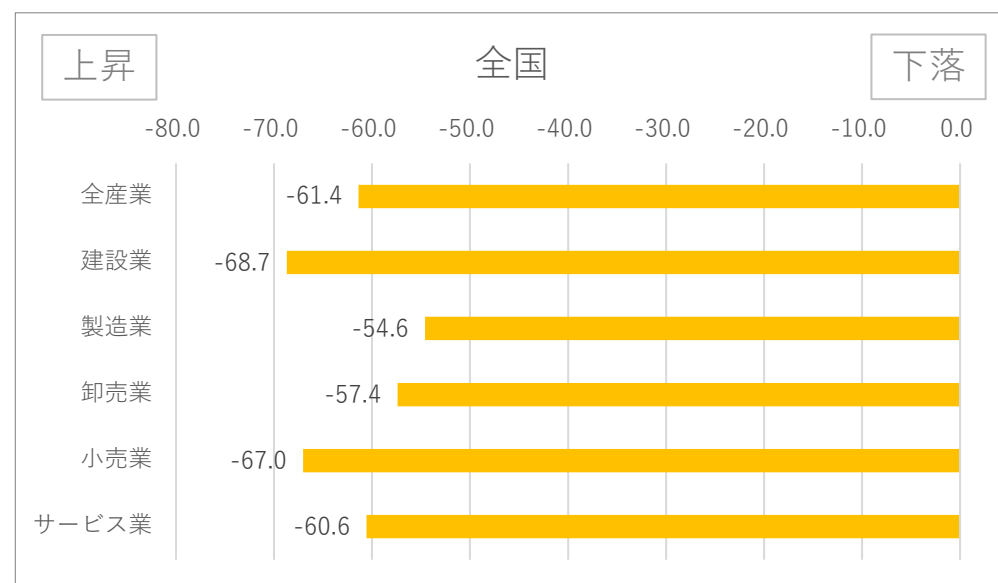
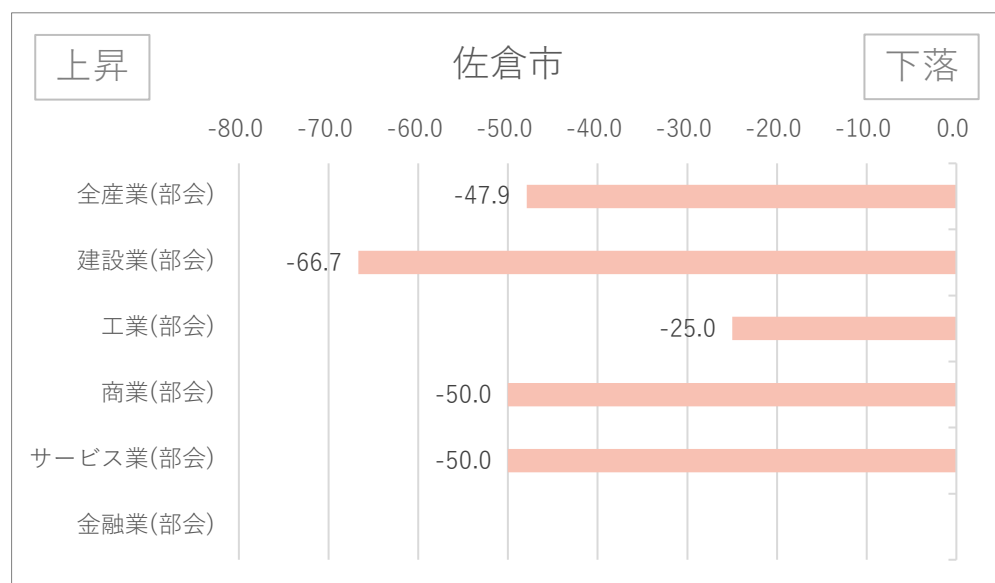
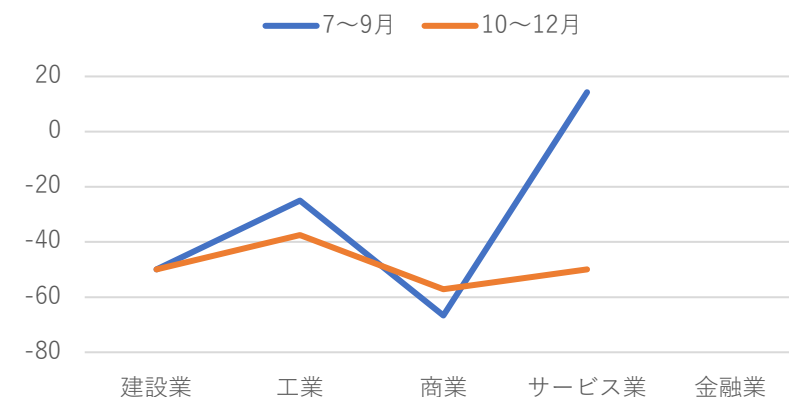


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における仕入れ単価は、全国調査同様に建設業(部会)の突出した上昇を示す結果となった。心理的には時間外労働の上限規制や労務単価の改定の影響があると推測され、高止まりから再上昇に向かう資材価格を想定すると今後の動向が懸念される状況にある。

また、3ヶ月後の先行きでは、前回調査でやや下落を見込んでいたサービス業(部会)が、上昇を見通す結果へと転じた。全産業(部会)でマイナス幅が大きく上昇傾向を見込んでいる。

■3ヶ月後の先行き見通し

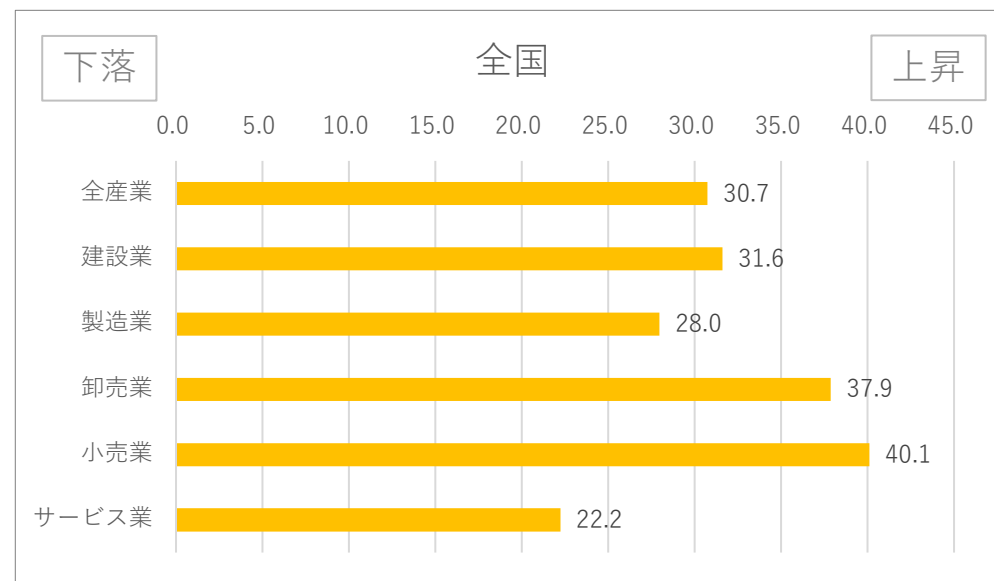
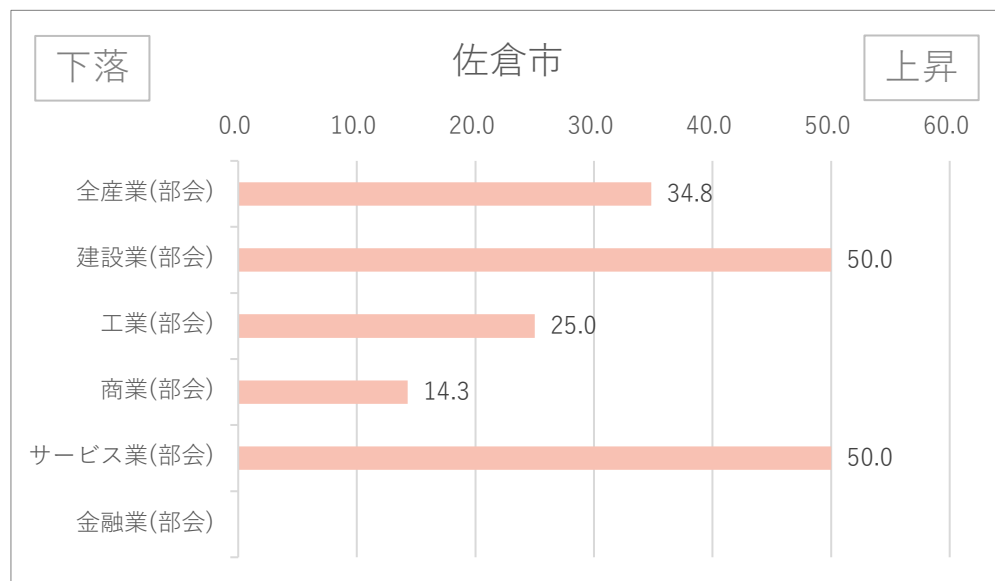
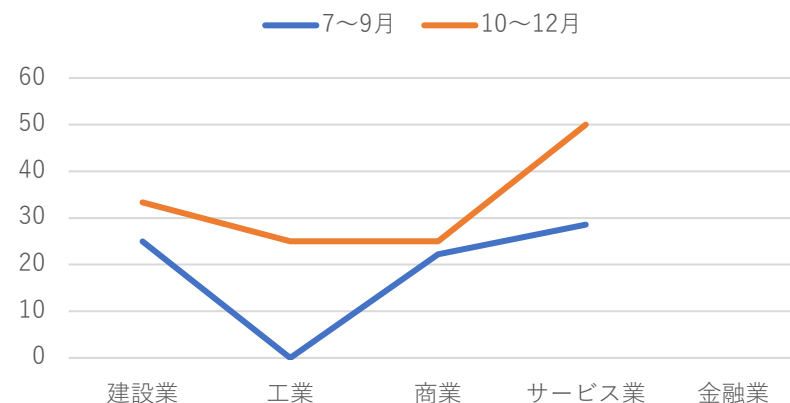


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における販売価格は、程度のバラツキはあるものの、ほぼ全産業(部会)で継続的な上昇となり、全国調査も同様の上昇傾向が続いている。仕入れ単価上昇との追いかけてが続いており、採算見通しの悪化に見られる通り利幅の確保に懸念が高まる。

3ヶ月後の先行き見通しも、前回調査から引き続き、ほぼ全産業(部会)でさらなる上昇を見通す結果となり、コストプッシュ型の価格改定を継続せざるを得ない状況となっている。

■3ヶ月後の先行き見通し

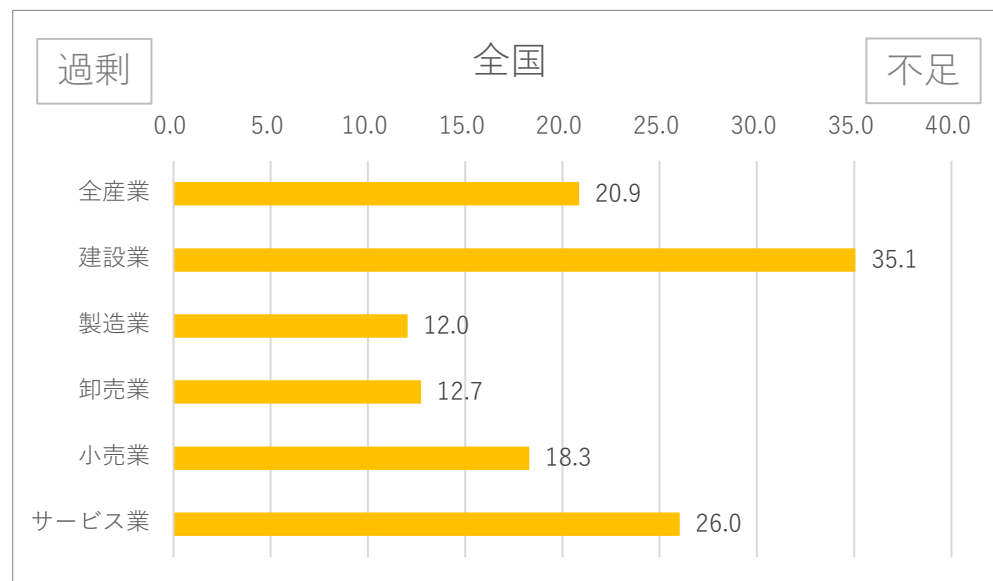
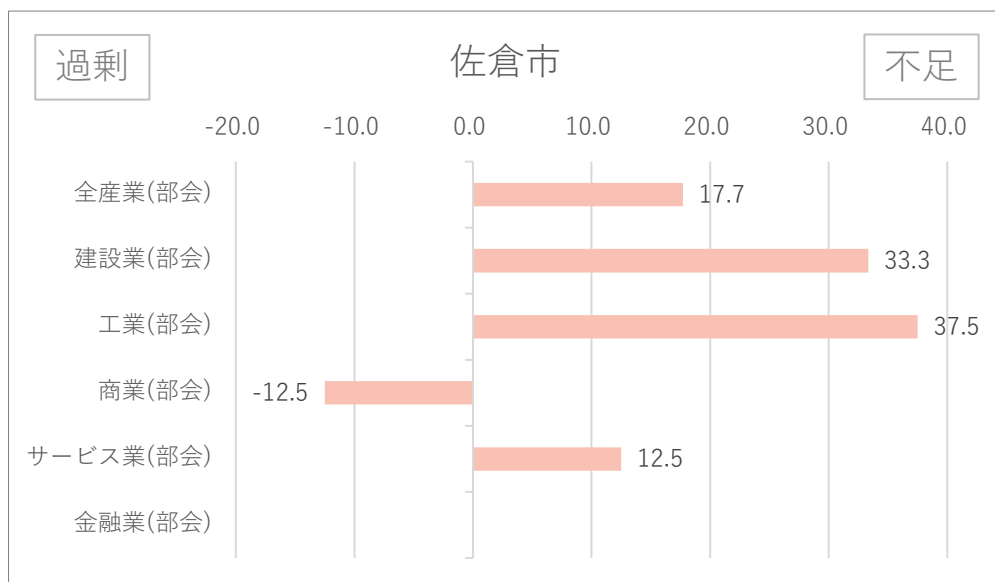
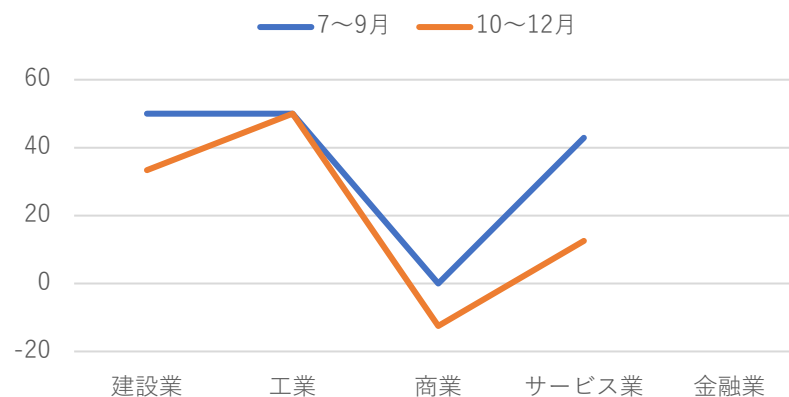


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の従業員の状況は、商業(部会)や建設業(部会)が牽引するかたちで不足感が示される結果となった。全国調査では建設業が群を抜いており、底堅い設備投資需要に対して、賃上げ原資の確保など難しいかじ取りが迫られている。

3ヶ月後の先行き見通しでは、全体的に不足感がやや緩和したような結果となっている。しかし、継続する賃上げ圧力や厳しさを増す採算性から楽観視することはできない状況である。

■3ヶ月後の先行き見通し

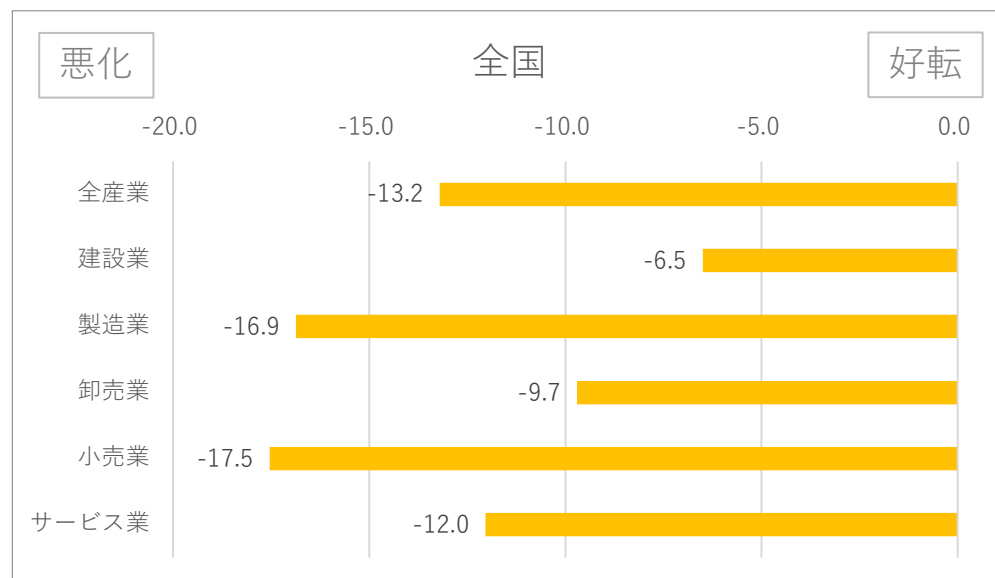
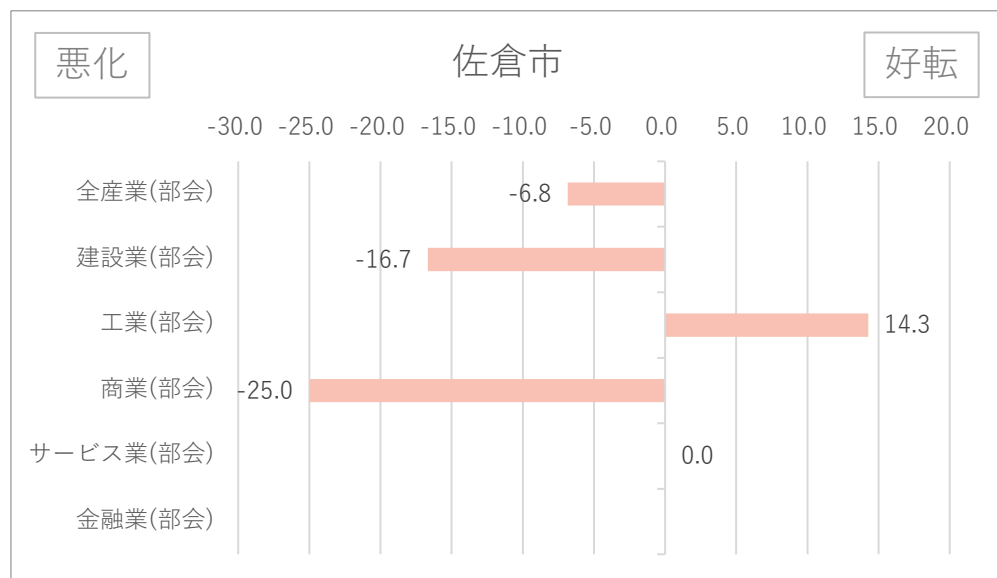
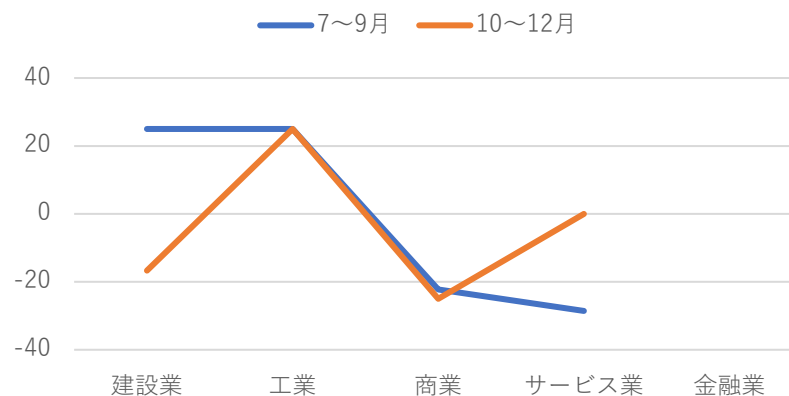


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における資金繰り状況は、産業(部会)で見解が分かれる結果となった。全国調査は継続して全産業が悪化を示しており、仕入れ単価の上昇と採算性の悪化を背景に、ゼロゼロ融資の返済、金利環境の変化などにより、危機感がこれまで以上に高まっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しも産業(部会)ごとの動向が示されているものの、採算性の悪化、人手不足の継続、資金繰りの厳しさは共通した課題であり、継続した注視が求められている。

■3ヶ月後の先行き見通し



※日本商工会議所LOBO調査より

部会	コメント内容
建設業部会	
工業部会	5000万以下の簡易消費税、インボイス制度は生産性向上に成らないので廃止。 消費税は簡単に一律で徴収してください。
商業部会	
サービス業部会	
金融業部会	

早期景気観測とは

地域の中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を調査し、その結果を集計・公表するもの。QUICK SURVEY SYSTEM OF **LOCAL BUSINESS OUTLOOK** からLOBO調査などと呼ばれる。

調査の目的

企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用すること。

調査の方法

調査依頼をメールにて一斉配信、Googleフォームのアンケートに対する回答入力による回収。

調査回答構成比

	商業 部会	工業 部会	建設 業部会	サービス業 部会	金融業 部会
部会員数 構成比	34.02%	7.06%	22.93%	32.80%	3.18%
回答数 構成比	26.67%	26.66%	20.00%	26.67%	0.00%

調査対象期間・回収期間

調査対象期間：令和7年7月～9月（3ヶ月間）

回収期間：令和7年10月1日～10月31日（Googleフォーム）

景況判断指数（DI値）とは、業況・売上・採算などの各項目についての判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。【景況判断指数＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）】